

第5編

教 育

生涯を通じて学び 豊かな心を育むまちづくり

第1章 次代を担う人づくり

- 5-1-1 教育環境の整備と地域ぐるみの教育推進
- 5-1-2 高等教育機関との連携による地域の魅力や活力の向上

第2章 新しい時代を拓く生涯学習環境の整備

- 5-2-1 生涯学習の推進と学習環境の整備
- 5-2-2 生涯スポーツ活動の推進とスポーツ環境の整備

第3部 まちづくり計画

第二次上田市総合計画
後期まちづくり計画

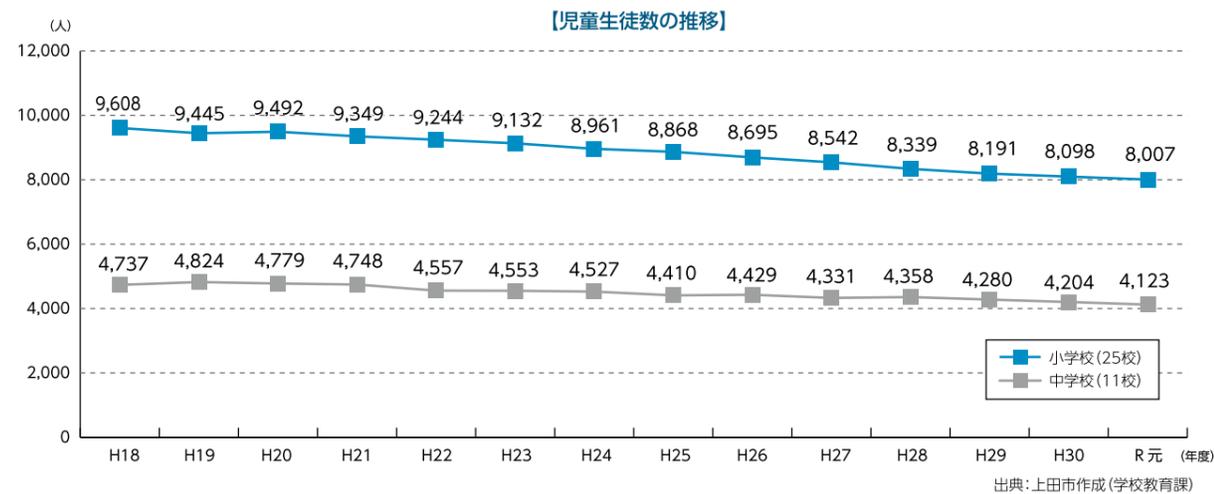


5-1-1 教育環境の整備と地域ぐるみの教育推進

子どもたちの学びの環境を充実し、学校の教育活動や家庭・地域の教育力の充実に向けた支援を推進します。

現状と課題

- 人口減少やグローバル化、人工知能などの技術革新により急速に社会が変化中、子どもたちが自らの力で未来を切り拓くため、「自ら学び、考え、行動する力」を身に付けることが重要です。
- 学校、家庭、地域、関係機関が連携した支援体制を充実させ、いじめや不登校などの未然防止と早期発見・対応を図り、すべての児童生徒が安心して登校し学校生活を送ることができるよう取り組むことが必要です。
- 障がいのある児童生徒が、持てる力を十分に発揮できるよう、個に応じた支援を充実していく必要があります。
- 核家族化や少子化の進展などにより、子どもを取り巻く環境が大きく変化している中で、「地域の子どもは地域で育てる」地域ぐるみの教育が必要です。
- 少子化が進行する中、多様な学習内容・学習形態に対応するとともに、将来にわたり持続可能な小中学校の施設整備を進める必要があります。
- 今後の上田市における望ましい教育環境を整えるため、地域の実情や特性に配慮しながら、学校の適正規模・適正配置を含めた「小中学校のあり方」の検討を進める必要があります。



達成度をはかる指標・目標値

指標の内容	基準値	計画目標(令和7年度)
特色ある学校教育の取組に対する市民満足度	23.1% (令和元年度)	30.0%
地域に開かれた学校づくりに対する市民満足度	34.8% (令和元年度)	50.0%

各主体に期待される主な役割分担

家庭	・子どもの基本的な生活習慣づくりや家庭学習習慣の定着など、家庭教育を充実します。
学校	・知・徳・体のバランスのとれた人間形成を目指すとともに、家庭や地域との連携を密にした学校運営を推進します。
地域	・児童生徒の育成に地域ぐるみで取り組みます。
事業者	・児童生徒の職業観の養成、将来の自立に向けた職場体験の受入れを推進します。
行政	・各主体と連携・協力しながら、地域ぐるみの教育環境の整備を目指します。

施策の方向性・展開

基本施策1 確かな学力や「生きる力*」を育む教育を推進します

- ①少人数学級、習熟度別授業、小中が連携した授業の推進**
 - 小中学校30人規模学級編制*や少人数学習集団編成*などによる、きめ細やかな指導を行います。
 - 小学校では、理解度や習熟度にばらつきが生じないように、少人数指導教員の配置や習熟度別授業を取り入れ、児童の理解度や習熟度の向上を図ります。
 - 中学校教員が小学校へ出向いて授業を行うことにより、中学進学への不安解消と学習意欲の向上を図ります。
- ②社会の変化に対応した幅広い教育の推進**
 - グローバル化が急速に進展する中、小中高大が連携した取組や、外国語指導助手(ALT*)を交えた実践的な英語授業などにより、豊かな国際感覚や外国語によるコミュニケーション能力の向上を図ります。
 - 国際的視野に立った異文化理解を深めるため、中学生の海外交流事業を実施します。
 - 「GIGAスクール構想*」の実現に向け、1人1台端末及び高速大容量の通信ネットワークを整備することを通じ、教員の効果的な情報機器の活用や授業改善を支援し、「わかる授業・楽しい授業」を実現し、児童生徒の学ぶ意欲を高め、学力の定着・向上を目指します。
 - 児童生徒の職場体験学習などのキャリア教育*を推進し、将来への夢を育み、確かな職業観を持ち、地域の産業に対する関心を高めます。
 - 環境学習を推進し、児童生徒の豊かな感性や環境を大切にすることを育みます。
- ③学力検査・調査を活用した実態把握と授業改善**
 - 学力検査などの結果を分析し、教員の指導力向上と授業改善に生かします。
 - 授業がわかり、楽しくなるよう、児童生徒が自ら計画を立て、授業と関連付けた家庭学習を行う習慣づくりを進めます。

基本施策2 きめ細やかな個に応じた指導を行い、すべての子どもの学びを支援します

- ①幼保小中の連携による切れ目のない成長支援**
 - 「幼保・小」及び「小・中」の連携強化を図り、「小1プロブレム*」、「中1ギャップ*」を解消し、子どもの発達を切れ目なく支えます。
- ②いじめ・不登校などの問題に悩む児童生徒への支援**
 - 各学校のいじめなど対策支援チームや不登校対策指導委員会が中心となって、いじめや不登校の未然防止・早期発見・早期対応を図ります。
 - 学校へ心の教室相談員*を配置し、スクールカウンセラー*及びスクールソーシャルワーカー*を派遣するとともに、家庭、学校、教育相談所、ふれあい教室が連携し、児童生徒に寄り添ったきめ細やかな支援を行います。
 - 教職員が、児童生徒の抱える思いや悩みを受け止め、寄り添い、適切な対応ができるよう教職員の学ぶ機会を充実し、指導力の向上を図ります。
- ③特別な支援が必要な児童生徒への支援**
 - インクルーシブ教育*の構築を目指し、教職員の共通理解を深める取組を推進します。
 - 障がいのある児童生徒が生活上・学習上の困難を克服し、持てる力を高めるソーシャルスキルトレーニング*の充実を図ります。
 - 発達相談センター、教育相談所、特別支援教育コーディネーター*連絡会の連携を強化し、支援ノート「つなぐ」を活用するなど、乳幼児から学童、青年期まで成長段階に応じた切れ目のない支援を行います。
- ④外国籍児童生徒への適応支援**
 - 集中日本語教室「虹のかけはし」において、バイリンガル*の指導員により、日本の生活習慣や基礎的な日本語の指導と併せ、一人ひとりの児童生徒の状況に応じた学習指導を行い、早期適応のための支援の充実を図ります。

- 外国籍児童生徒支援員や日本語教育指導員を小中学校に派遣し、外国籍の児童生徒に対する学習指導、配付文書の翻訳、保護者相談など、必要に応じた支援を行います。

⑤ 人権教育の実施

- 子どもたちが「自分や他人の大切さを認めること」、「人に優しい行動・態度をとること」ができるよう、人権尊重精神を育みます。

⑥ 食育の推進と地産地消の学校給食の充実

- 学校給食を通し、郷土の食材や伝統ある食文化を学ぶとともに、家庭での望ましい食習慣が身につくよう働きかけます。

基本施策3 学校・家庭・地域が連携し子どもの教育に関わる体制を構築します

① 地域に信頼され、地域とともにある学校づくり

- 保護者や地域住民の理解と参画を得ながら、ふるさと学習や学校ごとの特色ある学校づくりを行います。
- 地域の教育力を活用し、学校の実情に合わせ、地域ぐるみで子どもたちに多様な学習や体験の機会を提供します。
- コミュニティスクール*と地域学校協働事業*を連携して進めます。
- 学校評価や授業評価を実施し、各学校が改善の取組や目指す目標を設定し、開かれた学校づくりを進めホームページなどで公表します。

② 学校・家庭・地域の連携の強化

- 学校支援に関わるコーディネーターやボランティアの発掘・育成を図り、学校のニーズに応じ、地域ぐるみの支援を進めます。
- 地域において、子どもが放課後や週末に安心して過ごせる居場所づくりを進めます。
- 情報化社会において、児童生徒に情報・通信ネットワークを適切に使いこなす能力を身に付けさせるとともに、インターネット依存を予防するため、学校・家庭・地域が児童生徒のインターネット利用の実態を把握し、連携してルール作りを進め、情報モラルの学習を推進します。
- 地域住民、少年補導委員、関係団体の協力を得て、街頭での見守りや声かけ活動を推進します。
- 教育の原点である家庭教育を支援し、人とのふれあいや思いやりの心を大切に人間形成の基礎を培います。
- 地域の実情に合わせて地域安全対策会議や教育推進会議などの協力を得ながら、子どもたちの安全・安心に対する活動を推進します。

③ ふるさとに愛着を持つ人間性豊かな子どもの育成

- 地域の自然や文化に触れ、自然との共生や歴史などを学ぶ機会を増やします。
- 育成会や分館の活動を支援し、子どもたちが体験活動や世代間交流に参加する機会を設け、生きる力*や地域への関心を高める取組を推進します。

基本施策4 時代に対応した安全で安心な小中学校施設・設備の整備を進めます

① 計画的な小中学校施設整備の推進

- 建物の経過年数や老朽化の度合いを総合的に勘案し、個別施設計画（長寿命化計画）などに基づく施設整備を進めます。
- 教員住宅は、民間住宅の状況を勘案し、地域の実情を踏まえた上で順次縮小し、管理経費の削減を図ります。

② 学校の適正規模・適正配置の検討

- 上田市における望ましい教育の方向性を示す「小中学校のあり方に関する基本方針」を踏まえ、学校の適正規模・適正配置に向けた検討を進めます。

③ 学校給食施設の計画的な整備

- 「今後の学校給食運営方針」（H27策定、H31改訂）に基づき、学校給食施設の計画的な整備を進め、施設の衛生管理の徹底を図るとともに、食物アレルギーへの対応に取り組み、安全で安心できるおいしい学校給食を安定的に提供します。また、児童生徒はもとより、市民への食育の普及・推進に資する施設として活用を図ります。

参考 関連する個別計画

第3期上田市教育支援プラン、第2次上田市子ども・子育て支援事業計画、第二次上田市生涯学習基本構想、上田市人権施策基本方針（第1次改訂）



社会の変化に対応した「生きる力*」を育む教育
「プログラミング的思考の育成」



子どもたちをまんなかに学校・家庭・地域が連携
「コミュニティスクール*」



5-1-2 高等教育機関との連携による地域の魅力や活力の向上

公立大学法人長野大学を中心に、市内に所在する大学など高等教育機関との連携による学園都市づくりを推進します。

現状と課題

- 地方創生の取組において、地方への人の流れをつくる地方大学などの活性化、地域連携による経済・生活圏の形成の視点が掲げられています。
- 現在、多くの若者が県外に進学している状況があり、平成30年度の県内から他県への大学進学率は82.9%となっています。
- 市内には、5つの大学など（長野大学、信州大学、長野県工科短期大学校、上田女子短期大学、筑波大学山岳科学センター）や複数の専修学校があり、多くの学生が学び、生活する「学生のまち」の特色があります。
- 大学などの専門知識や学生の若い力を地域の活性化に役立てるとともに、学生が卒業後も地域を支える人材として活躍してもらうことが重要です。
- 平成29年4月に公立大学に移行した長野大学には、一層の地域貢献とともに、時代や社会情勢に応じた改革の実行が求められています。
- 地域への愛着と誇りを育む地域づくり・人づくりに向け、幼児教育から大学教育までの課程をはじめ、ライフステージに応じた「地域の学び」の浸透を図ることが必要です。

【市内4年制大学の学生数及び出身別割合（令和元年5月現在）】

名称	学生総数 (人)	内訳（出身別）					
		市内		県内（上田市外）		県外	
		人	割合	人	割合	人	割合
信州大学 繊維学部	1,238	39	3.2%	181	14.6%	1,018	82.2%
長野大学	1,457	135	9.3%	556	38.2%	766	52.6%

出典：上田市作成（学園都市推進室）

達成度をはかる指標・目標値

指標の内容	基準値	計画目標（令和7年度）
長野大学の一般入試志願倍率	6.5倍 (令和2年度)	5.0倍以上 (平成29年度策定の 中期計画目標値)

各主体に期待される主な役割分担

市民	・大学などの公開講座に積極的に参加し、学びの成果を地域づくりに生かします。
学生	・地域づくり活動などに参加し、市民との交流や連携を深めます。
大学など	・多くの学生が集まるよう学校の魅力を高めます。 ・知的資源を地域課題の解決や地域の活性化に生かします。
行政	・大学などの魅力を高めるための支援をします。 ・大学などの連携を促進し、地域づくりに生かします。 ・地域の魅力を高め、愛着を持ち、地域課題に対して解決に向けた行動ができる「シビックプライド*」の醸成を図ります。

施策の方向性・展開

基本施策1 大学など高等教育機関との連携による学園都市づくりを進めます

- ①キャンパスと地域をともに元気にする支援と連携**
 - まちなかキャンパスうえだ*を市内5大学などの連携の拠点として、地元をはじめ多くの学生が集まる魅力ある「学園都市づくり」に取り組みます。
 - 幼保小中連携に加え、小中高大連携など、子どもたちの育成や地域の活性化に向けた新たな連携の仕組みづくりや取組を進めます。
- ②知の拠点を生かすまちづくりの推進**
 - 大学発ベンチャー*の創出や、学生の柔軟な感性・活力を生かす地域づくり活動への支援など、地域課題解決につながる取組を支援します。
 - 大学などの公開講座情報を広く周知するとともに、「信州上田学*」による連携講座などを開催し、市民の多様化・高度化する学習ニーズに対応した地域づくり・人づくりにつながる生涯学習*プログラムの充実を図ります。

基本施策2 長野大学の大学改革や教育・研究の充実を促進します

- ①長野大学の魅力向上**
 - 公立化した長野大学に対し、運営費交付金の交付とともに、学部学科再編に伴う施設整備など、教育・研究の充実に向け連携して取り組みます。

参考 関連する個別計画

公立大学法人長野大学中期目標



多くの学生が集まる学園都市の拠点
「まちなかキャンパスうえだ」



地域の未来を創造・デザインし世界につなぐ
「長野大学」

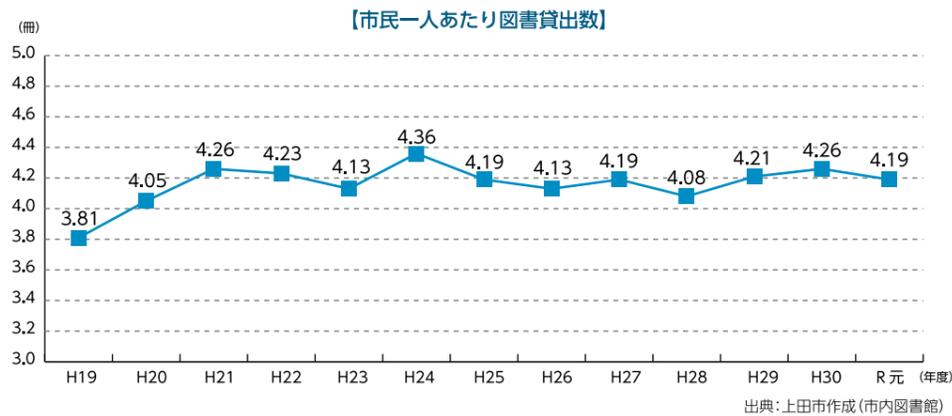
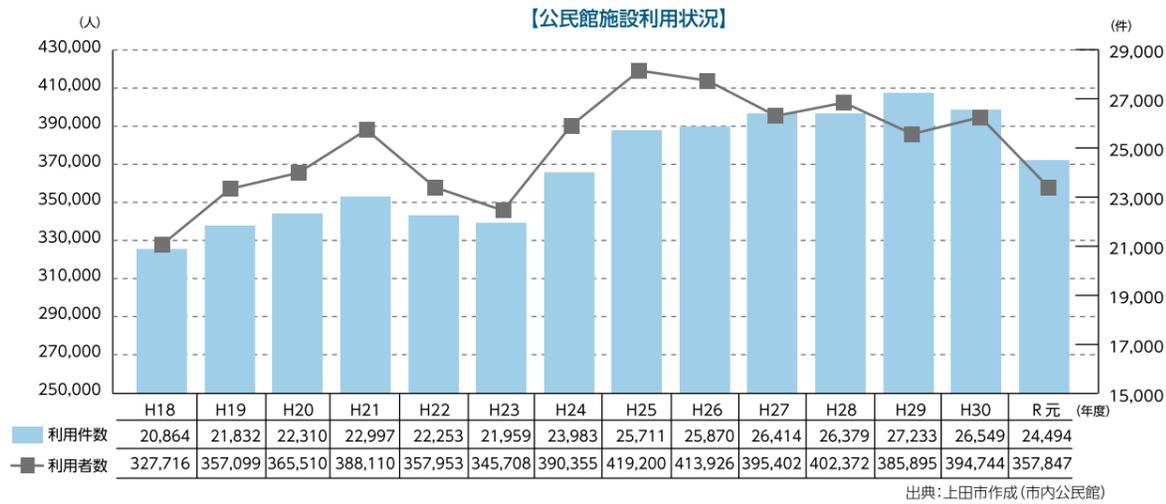


5-2-1 生涯学習の推進と学習環境の整備

市民一人ひとりのニーズに応じた学習の機会と環境を充実し、誰もが生涯にわたって学び成長することができる地域をつくります。

現状と課題

- 市民ニーズの多様化・高度化に対応した生涯学習*の機会を提供していくことが求められています。
- 誰もが学びやすい環境づくりに向け、公民館や図書館、博物館などの社会教育*施設の整備が必要となっています。
- 公民館では、社会教育の振興を通し、地域住民の主体的な学習活動を積極的に支援していく必要があり、市民一人ひとりが学んだ成果を地域のまちづくり活動やボランティア活動に生かしていけるような環境づくりが求められています。



達成度をはかる指標・目標値

指標の内容	基準値	計画目標(令和7年度)
公民館施設利用件数	24,494件 (令和元年度)	26,000件
生涯学習環境が整っていると感じる市民の割合	35.0% (令和元年度)	42.0%

各主体に期待される主な役割分担

市民	・学んだ知識や技能を地域のまちづくりに生かします。
生涯学習団体* など	・自ら学ぶとともに、市民に学習機会を提供します。
大学など	・研究成果などを市民の学習や地域づくりに生かします。
行政	・学習環境の整備を進め、市民主体の学習活動を支援します。

施策の方向性・展開

基本施策1 誰もが生涯にわたって学び成長できるよう、生涯学習*の振興を図ります

①生涯学習機会の充実

- 「第二次上田市生涯学習基本構想」に基づき、生涯学習の振興施策を総合的かつ計画的に推進するとともに、時代の変化に応じ定期的に見直しを行います。
- 公民館、図書館及び博物館などにおける講座やプログラムの充実、生涯学習団体の育成や支援、大学などとの連携を通し、多様な学習機会を提供します。
- 社会教育*施設利用団体及び地域づくり団体などへの学習情報提供や活動の支援を通し、学びによる仲間づくりや多世代の交流を促進します。
- 生きがいづくり及びまちづくりにつながる生涯学習の場の提供を通し、まちづくり活動に資する人材の育成に努めます。
- 市民団体や住民自治組織などと連携し、学んだ知識や技能を活用する機会や発表する機会の拡大を図ります。
- 地域住民の主体的な学習活動を支援するため、地域の魅力発見の取組や地域課題を学習する機会を充実させ、市民のまちづくり活動の実践につなげていきます。

②生涯学習環境の整備

- 老朽化などが進む社会教育施設の計画的な整備と、管理運営や職員体制の検討を進めます。
- 「第二次上田市図書館基本構想」に基づく図書館のあり方、配置などに関する図書館の施設整備を行うとともに、市民協働を含めた新たな図書館運営を目指します。
- 図書館のICタグ化*を進め、市民サービスの向上を図ります。
- 「子ども読書活動推進計画」に基づき、ボランティアと連携した読み聞かせ活動や子どもの読書活動を充実します。
- 専門的な知識、技能、経験を持つ人材などの情報を、地域づくりや学校の活動に提供します。
- 市や教育委員会、大学などで開催する各種講座などの生涯学習情報を様々な方法で市民に提供します。

参考 関連する個別計画

第二次上田市生涯学習基本構想、第二次上田市図書館基本構想

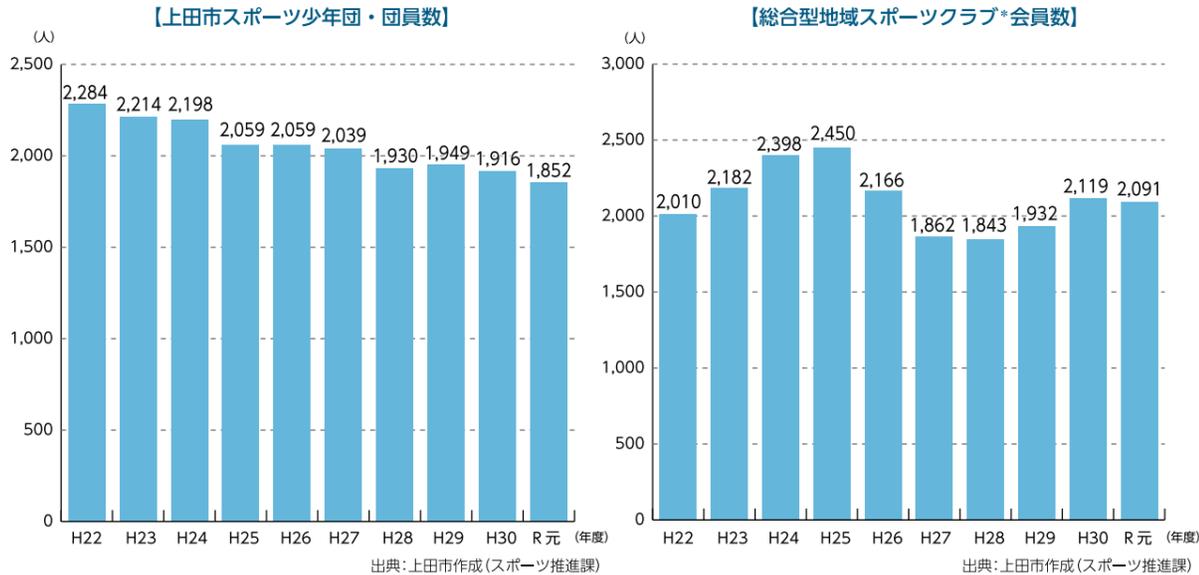


5-2-2 生涯スポーツ活動の推進とスポーツ環境の整備

「第二次上田市スポーツ推進計画」に基づき、体力向上や健康づくりの機会を拡大するとともにスポーツ環境の整備を促進し、生涯スポーツ社会の実現を目指します。

現状と課題

- ライフスタイルが変化し、健康づくりへの関心が高まる中、年齢や性別、障がいの有無に関わらず、誰もがいつまでも気軽にスポーツに親しめるまちづくりを進めていく必要があります。
- 多様なスポーツ・レクリエーションや競技スポーツ振興を図るため、「上田市スポーツ施設整備計画」に基づき、計画的な施設整備を進める必要があります。
- 高地トレーニング・スポーツ合宿の適地として、菅平高原を国内外に積極的にPRし、ブランド力を強化させるとともに、各種大会などを誘致することにより、交流人口を増加させることが重要です。
- 上田市から世界の舞台や国内の大規模大会などで活躍する選手が育つことを視野に入れ、優れた競技者を発掘し、応援する体制づくりが重要です。



達成度をはかる指標・目標値

指標の内容	基準値	計画目標(令和7年度)
総合型地域スポーツクラブ会員数	2,091人 (令和元年度)	2,200人
スポーツ環境が整っていると感じている市民の割合	7.9% (令和2年度)	30.0%

各主体に期待される主な役割分担

市民	・スポーツ活動やイベントに積極的に参加します。
スポーツ団体・事業者など	・市民がスポーツに親しめる機会を提供します。 ・「みる」スポーツの機会の増加を図ります。 ・指導者の育成や派遣を行います。 ・世代間交流や地域交流を広げます。
行政	・気軽にスポーツに親しめる環境を整えます。 ・競技スポーツの振興を図ります。

施策の方向性・展開

基本施策1 体力向上・健康づくりの機会拡大を図ります

- ①スポーツ環境の充実**
 - 上田市スポーツ施設整備計画に基づく施設整備を進めます。
 - スポーツ施設の休場日利用や体育館などの学校体育施設の開放を進め、身近なスポーツ施設を地域の実情に応じて効率的に活用します。
- ②生涯スポーツ活動の推進**
 - 上田市体育協会*などのスポーツ団体や企業との連携協働のもと、各種スポーツ大会やスポーツ教室の開催、「みる」スポーツの機会を提供し、生涯スポーツへの参加機会の拡大を図ります。
 - 市民の健康づくりを推進する協働のパートナーとして、誰もが気軽に参加できる「総合型地域スポーツクラブ*」の加入者の増加を図るため、活動を広く周知する啓発活動、指導者の育成、クラブ間連携、各クラブの自立などを支援します。
 - スポーツ少年団活動などへの支援を通し、スポーツやレクリエーションの場を提供し、子どもたちの健全育成を図ります。

基本施策2 競技スポーツの強化に取り組みます

- ①指導体制の充実と競技者育成**
 - スポーツ団体などと連携し、有望な人材の発掘や練習環境の整備など、障がいのあるかたも含め、競技者を育てる環境づくりを推進します。
 - スポーツ指導者の資質向上のための研修会などを開催し、指導体制の充実を図ります。
 - 全国大会などに出場する選手・団体に対し、奨励金を支給し支援します。

基本施策3 地域特性を生かしたプロスポーツ競技などの誘致や交流促進を図ります

- ①プロスポーツ競技などの誘致及び交流の促進**
 - プロスポーツ競技の市内開催と、菅平高原や温泉地などの地域特性を生かしたスポーツ大会・合宿などの誘致を進めます。
 - 日本で開催される国際大会時のトレーニング地としても、各国ナショナルチームの事前合宿の誘致を進めます。
 - 子どもたちがプロスポーツ選手やオリンピックメダリストなどのトップアスリートから直接指導を受ける機会を設けるなど、将来の夢を描くことができる取組を推進します。

参考 関連する個別計画

第二次上田市スポーツ推進計画、上田市スポーツ施設整備基本構想・整備計画



誰もがいつまでも気軽にスポーツに親しむ「あたま・からだ健康フェア」

指標・目標値一覧（第5編）

■教育【生涯を通じて学び豊かな心を育むまちづくり】

編章節	指標の内容	基準値	計画目標 (令和7年度)
5-1-1 教育環境の整備と地 域ぐるみの教育推進	【戦略】 特色ある学校教育の取組に対する市民満足度	23.1% (令和元年度)	30.0%
	【戦略】 地域に開かれた学校づくりに対する市民満足度	34.8% (令和元年度)	50.0%
5-1-2 高等教育機関との連 携による地域の魅力 や活力の向上	長野大学の一般入試志願倍率	6.5倍 (令和2年度)	5.0倍以上 (平成29年度策定 の中期計画目標値)
5-2-1 生涯学習の推進と学 習環境の整備	公民館施設利用件数	24,494件 (令和元年度)	26,000件
	生涯学習環境が整っていると感じる市民の割合	35.0% (令和元年度)	42.0%
5-2-2 生涯スポーツ活動の 推進とスポーツ環境 の整備	総合型地域スポーツクラブ*会員数	2,091人 (令和元年度)	2,200人
	スポーツ環境が整っていると感じている市民の割合	7.9% (令和2年度)	30.0%

(注) 【戦略】は、「総合戦略*」の重要業績評価指標(KPI)に位置付ける目標値